

生活単元学習の指導 ～期待をもち、分かって取り組む単元活動の工夫～

はじめに

生活単元学習は、領域・教科を合わせた指導の代表的な指導の形態であり、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校や特別支援学級の教育課程の中に位置づけられています。

知的障害教育では、子どもが自立し、社会参加するために必要な「生きる力」を育てることを目指し、社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を体験的、实际的に学ぶことを重視してきました。生活単元学習はまさにそれを具現化する有効な指導方法として用いられてきました。しかし、時代や社会の変化の中で、教育課程編成や指導方法が多様化するとともに領域・教科を合わせた指導自体の難しさなどから、生活単元学習の指導の本質を見失いがちであることは否めません。

そこで、改めて生活単元学習とは何か、どんなことに留意し指導計画の立案や具体的な指導を行えばよいか、また、期待感や見通しのもてる単元活動をどのように設定・展開するか、事例を通して述べます。



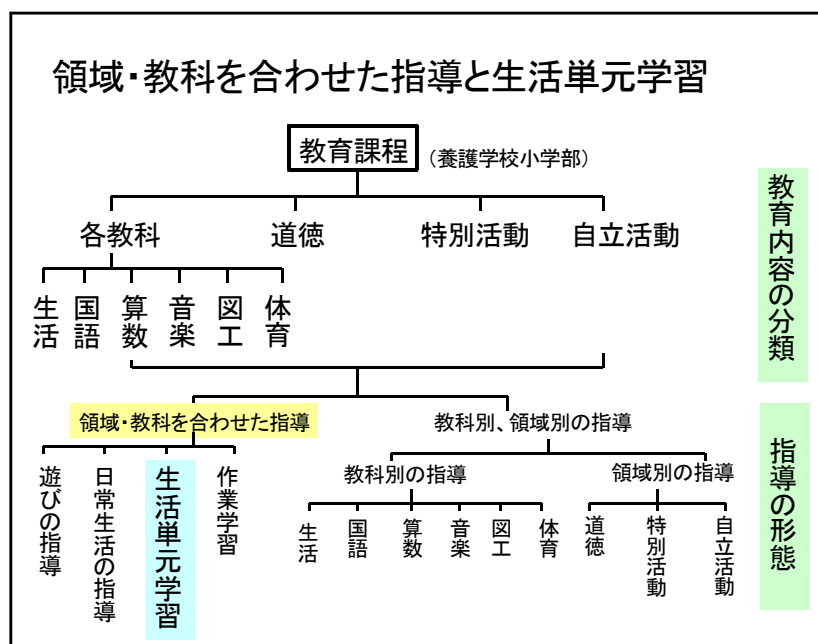
I 生活単元学習とは

1 生活単元学習とは

生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を实际的・総合的に学習できるようにする指導の形態である。単元は、学校行事を中心としたもの、地域等の行事を中心としたもの、トピック的な出来事を中心としたものなどがある。指導計画は、単元の配列、指導内容、活動の場の設定、個別の目標、課題等について工夫して作成することが大切である。

(「盲・聾・養護学校教育の基本用語辞典」 明治図書 より抜粋)

2 教育内容の分類と指導の形態との関係 (下図:「生活単元学習指導の手引き」文部省S61より)



教育内容の分類

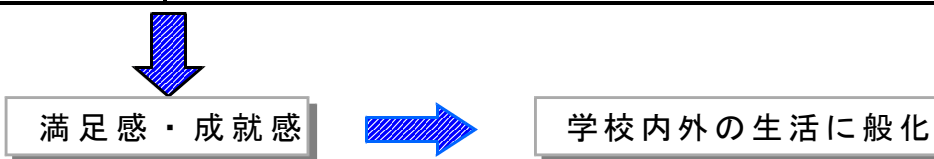
指導の形態

左図から分かるように、生活単元学習は領域・教科を合わせた指導の一形態であり、生活そのものを扱うことから領域・教科の内容を最も総合的に含み込むことが可能です。学校、学部、学年等によって配当時数に差はありますが、生活単元学習を週時程表に位置付けて取り組んでいることが多く見られます。また、同時期に行っている教科別の指導等との関連を図りながら生活単元学習の指導を行うことが効果的です。

3 生活単元学習の特徴と望ましい条件

生活単元学習には、主に六つの特徴があります。それらの特徴を踏まえ、より望ましい生活単元学習を計画・実施するためには、兼ね備えるべきいくつかの条件があります。

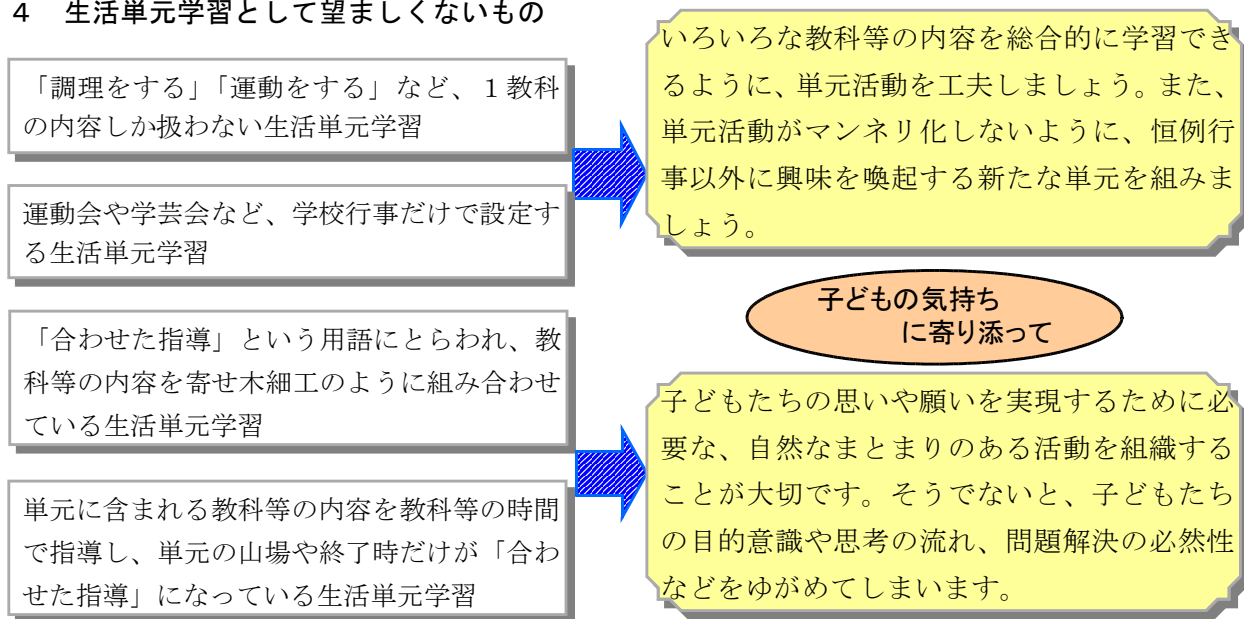
特 徴	望 ま し い 条 件
① 主体的な学習	興味・関心に基づく、目当てや見通しがもてる
② 総合的な学習	必要な知識・技能が習得できる、多種多様な経験ができる
③ 実質的な学習	実際の生活から発展する、望ましい習慣・態度が身に付く
④ 活動的な学習	具体的な活動がある、活動は自然な生活のまとまりである
⑤ 共同的な学習	共通の課題意識がもてる、人とかかわりをもって活動できる
⑥ 個別的な学習	個々の発達水準に合う活動である、個々の力が発揮できる



生活単元学習は、上記のような特徴や望ましい条件を踏まえて指導計画を練り、単元活動を設定します。子どもたちは、自分のもてる力を精一杯発揮して単元活動に取り組むことで、達成感や満足感を味わい、新たな活動に挑戦する意欲や学習したことを家庭・地域生活に生かそうとする態度を養うことができます。

※生活単元学習は、教科や領域の内容を教えるための学習方法ですが、各教科等の系統性に基づいて組織するのではなく、生活の流れやまとまりに基づいて計画・展開する、つまり生活の系統性を大切にします。子どもたちは、あくまでも様々な活動の結果として教科や領域の内容を習得するのです。また、そうなるように学習を組織することが大切です。

4 生活単元学習として望ましくないもの



II 生活単元学習の指導計画の立て方

生活単元学習は、学校行事を中心にしたもの、季節や地域の行事を中心にしたもの、生活上の課題を中心にしたもの、偶発的な出来事を中心にしたものなどがあります。

指導計画立案にあたっては、まず一人一人の子どもの障害の状態や発達段階、興味・関心等の実態を把握することが大切です。そして、学級全体の特徴などを踏まえ、年間指導計画を作成し、具体的に単元活動を展開します。

生活単元学習の課題として、次のようなことが言われています。

- ・主体性、自主性を大切にしようと思うが、結果的に教師主導の授業になってしまう
- ・子どもの興味・関心を生かそうとすると、活動がパターン化、マンネリ化しやすい
- ・体験的、実際的な活動をしても、子どもの実際の生活に生きる活動になりにくい
- ・集団活動の意義は分かるが、個々の多様な実態やニーズに応じた授業の展開が難しい



これらを打破するために、以下のポイントに留意することが大切です。

1 年間指導計画立案のポイント

●単元のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容が偏らないよう年間を通して多種多様な経験ができるようにする ・指導内容の習得ができるように、単元間の活動内容に関連をもたせ継続的に取り組んだり、ある時期に一定の活動内容を集中的に取り組んだりする
●新規性のある活動	<ul style="list-style-type: none"> ・行事単元だけでなく、トピック的な単元や魅力ある単元の開発に努める ・毎年繰り返す行事単元の活動内容の工夫や目標の高次化を図る
●学級経営との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達段階はもちろん、生活年齢や学級の特徴も考慮する ・人とのかかわりや社会的ルールなどの集団性の向上に留意する

2 単元計画立案のポイント

●個別の指導計画との関連	子どもの思いや願いの実現を図る中で、重点目標の達成に向かうよう活動内容を設定する
●実態把握(単元との関連)	単元活動における興味・関心、目的意識、知識・技能、人とのかかわり等について個々の実態を把握する
●目標設定(全体・個別)	全体目標を受け、個々に「主体性」、「集団性」、「知識・技能面」などから、具体的な姿としてとらえ、設定する
●活動内容の選択 右の内容を一人一人について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心がもてる ・目的が明確である ・発達段階に合っている ・人とのかかわりを伴う ・力を最大限発揮できる ・適切な問題解決場面を伴う ・満足感、成就感が味わえる
●支援の方法 一人一人の「できる状況づくり」を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・単元展開の工夫 ・学習集団編成の工夫 ・教材・教具の工夫 ・教師のかかわり方の工夫 ・チームティーチングの工夫 ・個への配慮
●評価の方法 全体と個を評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成できたか ・どの支援が有効だったか ・改善点は何か (→年間指導計画→個別の指導計画)



そうか、分かったぞ!



Ⅲ 生活単元学習の具体的な実践 ～単元「クラスの友達の家遊びに行こう」～

1 単元の設定理由

本単元は、中学部1年生7名の学級で11月に取り組んだ実践です。本学級は1学期に、春の遠足で、バスや電車の利用の仕方や友達同士でまとまって行動することなどの学習を行いました。生徒たちは「バスと電車で行くんだ」と言いながら意欲的に活動に取り組みました。その後、キャンプや運動会などの行事の中で、友達への関心が少しずつ高まり、友達同士の会話が増えたり、追いかけてっこをして遊んだりする生徒の姿などが見られました。そこで、生徒たちの興味・関心が高いバスや電車を利用して学級の友達の家遊びに行くことで、友達への関心やかかわりを一層高めてほしいと考え、本単元を設定しました。



2 単元計画の工夫

(1) 期待感のある単元活動

大きな行事の隙間を埋める単元は、新規性に富み、トピック的な要素を含む単元にしたいと考えました。

友達の家に行く、友達が家に遊びに来るという経験があまりなかった生徒たちは、とても興味を示し「bちゃんちに行くんだ」と期待感をもちました。生徒たちの意識が継続し生活のテーマとなるよう、できる限り週時程表で带状に生活単元学習を組みました。

(2) 分かって取り組む工夫

大きな流れを、計画→準備・実践→まとめとし、準備・実践においては、2軒に訪問することで、ほぼ同じ活動を2回繰り返すようにしました。このことで活動に見通しをもつと同時に内容の習得を図りました。

また、簡単な会話が成立し、バスや電車の利用がある程度できるAグループと、簡単な会話の成立は難しいが、具体的な活動を通すことで分かるBグループに分けて、活動内容を設定しました。このことにより、各自がもてる力を発揮し、結果的に学級全体で力を合わせてゴールに向かう学習となり、満足感や成就感を得ることができました。

単元計画（全13指導時間） ※1指導時間は140分

題材名	主な活動内容	
1 訪問の計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の家遊びに行くことを知る ・ 誰の家に行くか決める ・ 訪問する準備について相談する 	
2 訪問する準備を出かけよう	Aグループ（4名）	Bグループ（3名）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ b女宅に電話をする練習をする ・ b女宅に電話をかける ・ b女宅までの行程表を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ b女宅へ届けるおみやげを作る
訪問日	<ul style="list-style-type: none"> ・ b女宅を仮設し、訪問の練習をする ・ b女に案内されながら、バスや電車に乗ってb女宅を訪問し、歓談したりお弁当を食べたりする ・ b女宅にお礼の電話をしたり、手紙を書いたりする 	
	Aグループ	Bグループ
訪問日	<ul style="list-style-type: none"> ・ C男宅に電話をする練習をする ・ C男宅に電話をかける ・ C男宅までの行程表を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ C男宅へ届けるおみやげを作る
	<ul style="list-style-type: none"> ・ B男、C男、(T1)でC男宅を訪問し、他の生徒はC男宅へのおみやげ作りを学校に残って行う ・ C男宅を仮設し、訪問の練習をする ・ C男とB男に案内されながら、バスや電車に乗りC男宅を訪問し、歓談したりお弁当を食べたりする ・ C男宅にお礼の電話をしたり、手紙を書いたりする 	
3 まとめをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問当日のビデオを見たり、楽しかったことを発表したりし、学習のまとめをする 	

C男は、自分の家の案内が難しかったため